

第2章 経済の再建

1. 暮らしむきの変化（家計簿調査）

震災が世帯単位の暮らしむきに及ぼした影響を見るために、家計簿調査を実施した。

具体的には、市井に出回っている家計簿の形式を採用し、「家計のやりくりには、震災後どのような変化がありましたか。家計簿を思いうかべて、各項目についてそれぞれあてはまる場所に○をつけてください。」と質問し、収入、支出、預貯金に関して「増えた、変わらない、減った」の3選択肢で回答を求めた。（問18、図1-20）

また、支出に関しては、さらに細かく「食費、外食費、住居・家具費、光熱費、日用雑貨費、衣服費、文化・教育費、交際費、レジャー費、交通費、医療費、保険料、自動車費」の13費目に細分し、同じく3選択肢で回答を求めた。

*自動車費に関しては、全回答者が自動車を所有するわけではないので、全体の分析からは除いた。

問18. 家計のやりくりには、震災後、どのような変化がありましたか。現在の家計簿を思いうかべて、各項目について、それぞれあてはまる場所に○をつけてください。

震災前と比べて、現在のお宅の家計簿では…	
1) 収入	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
2) 支出	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
3) 食費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
4) 外食費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
5) 住居・家具費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
6) 光熱費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
7) 日用雑貨	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
8) 衣服費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
9) 文化・教育費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
10) 交際費（冠婚葬祭費を含む）	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
11) レジャー費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
12) 交通費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
13) 医療費	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
14) 保険料	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
15) 自動車費（ある方のみ）	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)
16) 預貯金	(増えた ・ 変わらない ・ 減った)

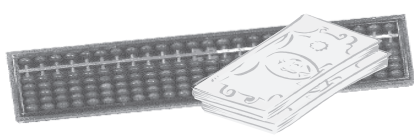


図1-20 暮らしむきに関する質問項目

①全体傾向

- ・全体傾向をみると、収入が減り、支出を切りつめ、預貯金を減らした人が増加し、収入が減った分を、支出を切り詰めて、家計のバランスをとっていた。

くらしむきの全体傾向をみると(図 1-21)、収入は全体の 58.0%の人が「減った」と回答し、2001 年調査に比べて 16.9 ポイント、2003 年調査に比べて 5.9 ポイント増えていた。支出、預貯金が「減った」人は、2003 年調査に比べて微増していた。

全体傾向としては、収入が減った分を、預貯金の取り崩しだけでなく、支出を切り詰めて、家計のバランスをとっているという状況であるといえる。

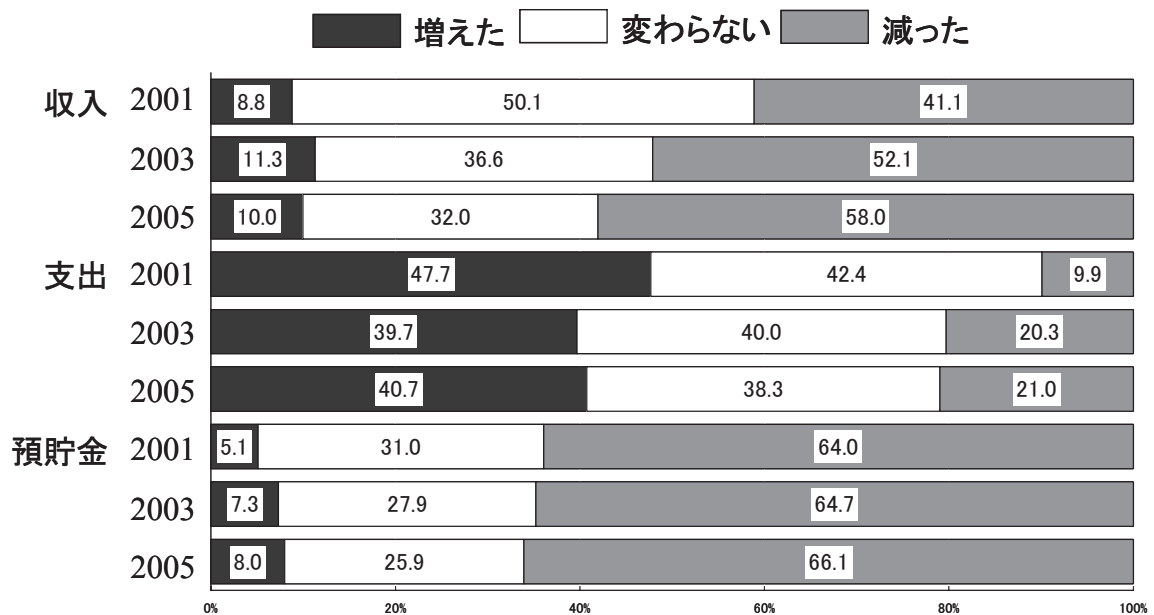


図 1-21 2001 年・2003 年・2005 年調査 くらしむきの全体傾向の比較

②くらしむきと家屋被害程度との関連性

ア. 家屋被害程度と収入・支出・預貯金との関連性

- ・家屋被害程度の高い人ほど、収入・預貯金が減った人が多かった。
- ・家屋被害程度と支出との関連性では、特別な傾向は見られなかった。

家屋被害程度によって、被災者のくらしむきにどのような違いがあるのかを分析した。(図 1-22, 1-23, 1-24)。2001 年調査では、家屋被害程度の高い人ほど、収入が減り、支出が増え、預貯金が減った人が多かった。2003 年調査では、引き続き、家屋被害程度の高い人ほど、収入・預貯金が減った人が多かったが、支出と家屋被害程度の関連性では特別な傾向は見られなかった。

2005 年調査においても、2003 年調査と同様、家屋被害程度の高い人ほど、収入・預貯金が減った人が多かったが、支出と家屋被害程度の関連性では特別な傾向は見られなかった。

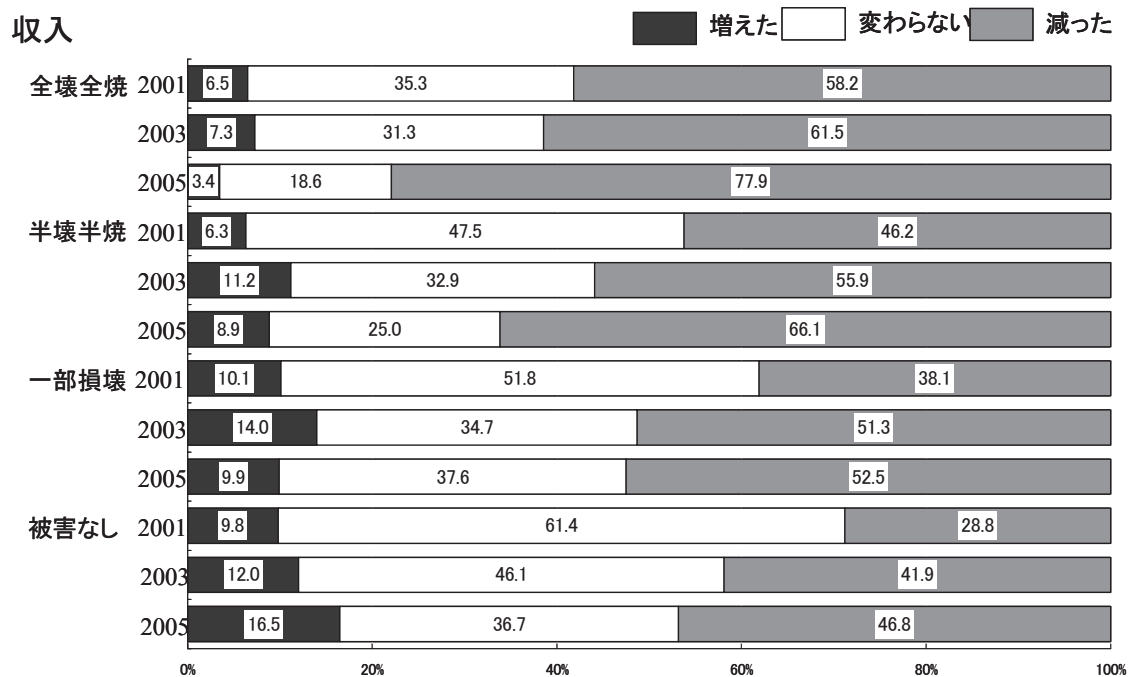


図 1-22 2001 年・2003 年・2005 年調査 家屋被害程度別収入の比較

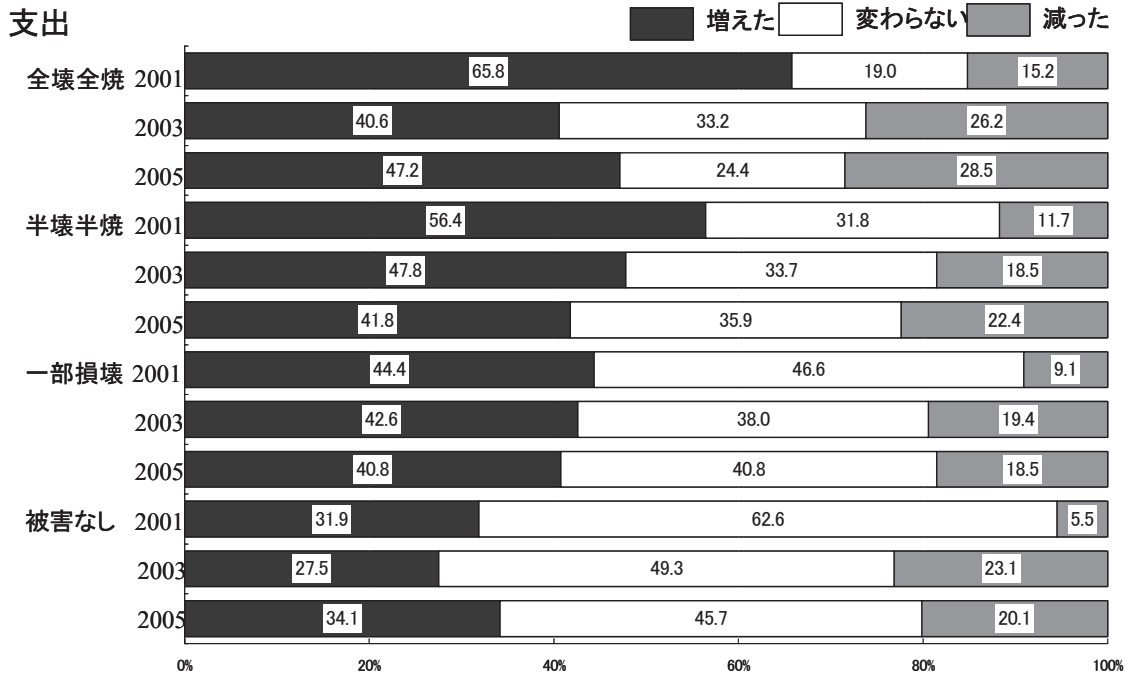


図 1-23 2001 年・2003 年・2005 年調査 家屋被害程度別支出の比較

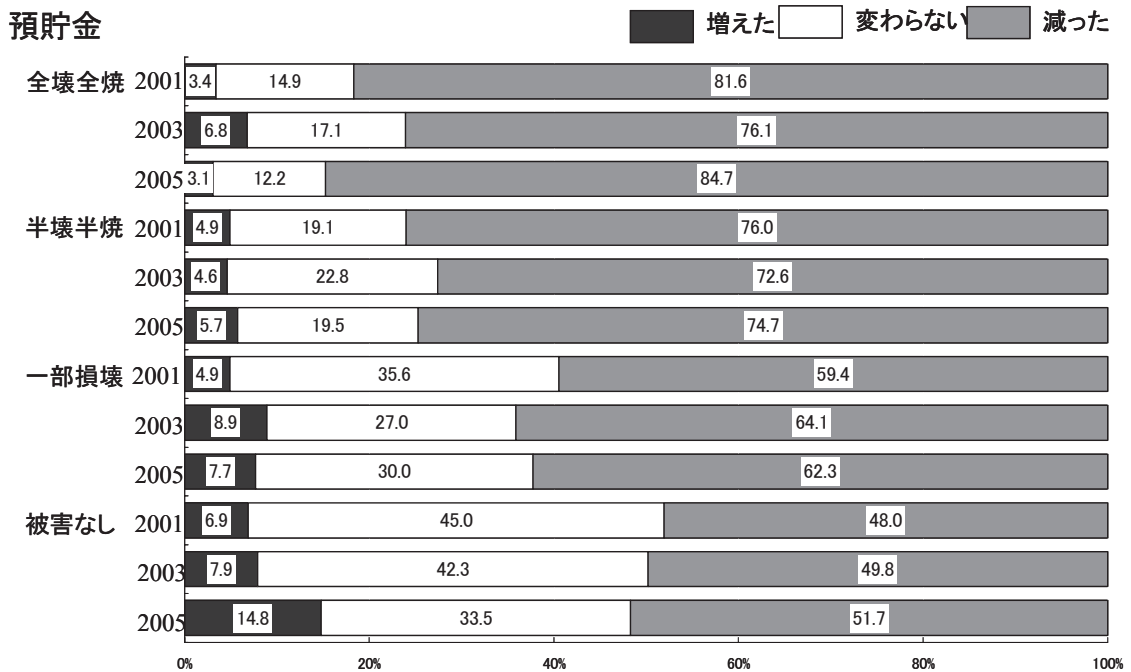


図 1-24 2001 年・2003 年・2005 年調査 家屋被害程度別預貯金の比較

イ. 支出細目と家屋被害程度との関連性

- ・家屋被害程度別に、支出細目の支出パターンを見ると、2001年調査・2003年調査と同様に、「ふえる一方」型、「やりくり」型、「けずる一方」型の3パターンに分類された。

2005年調査回答者における家屋被害程度別の支出細目の回答傾向に対して、クラスター分析を行ったところ、3パターンが明らかとなった。各パターンについて2001年調査・2003年調査と同様に、「ふえる一方」型「やりくり」型「けずる一方」型と名づけた（図1-25）。

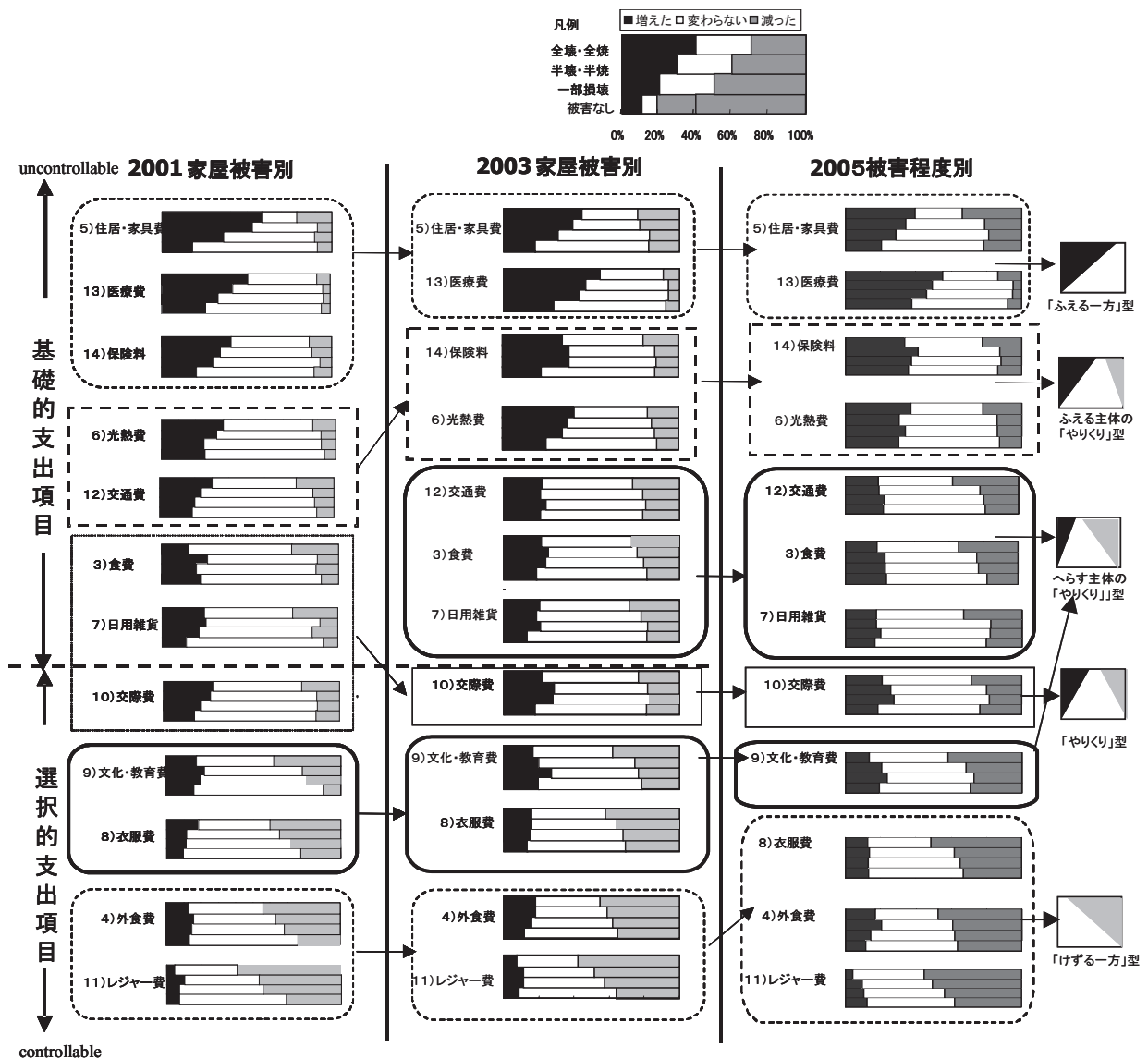


図1-25 2001年調査・2003年調査・2005年調査 家屋被害程度別支出パターン(支出細目別)

a) 「ふえる一方」型

震災から 10 年たった調査時点でも、「住居・家具費」「医療費」については、家屋被害程度の大きかった人ほど、支出が増えた人が多かった。たとえ、くらしむきに変化があったとしても、個人裁量のやりくりでは減らすことのできないのが、これらの支出細目の特徴といえる。

b) 「やりくり」型

「やりくり」型は、2001 年調査・2003 年調査と同様、「やりくりをしても支出が増えた」パターン、反対に「やりくりをして支出を減らした」パターン、「支出の増減がほぼ拮抗した」パターンの 3 つに分類できた。

やりくりをしても増えた経費は、「保険料」「光熱費」であった。反対に減らした経費は、「交通費」「食費」「日用雑貨」「文化・教育費」であった。2003 年調査ではこのパターンに分類された「衣服費」は 2005 年では「c. けずる一方」型に分類された。また、増減がほぼ拮抗した経費は「交際費」であった。くらしむきを維持するために、各世帯の裁量でやりくりしているのがこれらの細目であるが、支出を減らす方向でやりくりしている人が多いことが明らかとなった。

c) 「けずる一方」型

「けずる一方」型に分類されたのは、2001 年調査・2003 年調査と同様、「外食費」「レジャー費」であった。また「衣服費」が 2005 年調査では「けずる一方」型に分類された。多くの人が、生活のうるおい部分であるこれらの支出を減らし、増やした人は顕著に少なかった。これらの細目を減らした人が多いという事実から、家屋被害の大きかった人ほど、生活からゆとりや余裕が奪われ、震災からの復興を実感するまでには至っていない状況がうかがわれた。

ウ. 2001年調査・2003年調査・2005年調査の比較

- ・ 4年間の支出パターンの全体傾向には、大きな差はなかった。
- ・ 5つの支出細目（保険料・交通費・食費・日用雑貨費・衣服費）については、2001年からの4年間の間に、支出を減らした人が多かった。

2001年調査・2003年調査・2005年調査における支出細目のパターンを比較すると（表1-7）、4年間の基本的な支出のトレンドに変化はなかった。

しかし、次の5細目については、4年間の間に支出パターンが「へらす」方向に変化した。（左から順に、2001年、2003年、2005年調査でのパターン）

- 保険料：「ふえる一方型」→「ふえる主体のやりくり型」→「ふえる一方型」
- 交通費：「ふえる主体のやりくり型」→「へらす主体のやりくり型」→「同左」
- 食費、日用雑貨費：「やりくり型」→「へらす主体のやりくり型」→「同左」
- 衣服費：「へらす主体のやりくり型」→「同左」→「けずる一方型」

以上から、生活に密着した支出（保険料・交通費・食費・日用雑貨費）をより切りつめるとともに、生活の選択肢としての消費（衣服費）についてもさらに減らして、くらしむきのバランスをとろうとしていることが明らかになった。景気低迷の影響がまだ個人消費に影響を与えている結果であることがうかがわれる。

表1-7 2001・2003年・2005年調査 家屋被害程度別支出パターン（支出細目別）

	支出細目	2001年調査支出パターン	2003年調査支出パターン	2005年調査支出パターン
1	住居・家具費	ふえる一方型	ふえる一方型	ふえる一方型
2	医療費	ふえる一方型	ふえる一方型	ふえる一方型
3	保険料	ふえる一方型	ふえる主体のやりくり型	ふえる一方型
4	光熱費	ふえる主体のやりくり型	ふえる主体のやりくり型	ふえる主体のやりくり型
5	交通費	ふえる主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型
6	食費	やりくり型	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型
7	日用雑貨	やりくり型	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型
8	交際費	やりくり型	やりくり型	やりくり型
9	文化・教育費	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型
10	衣服費	へらす主体のやりくり型	へらす主体のやりくり型	けずる一方型
11	外食費	けずる一方型	けずる一方型	けずる一方型
12	レジャー費	けずる一方型	けずる一方型	けずる一方型

③くらしむきと世帯年収との関連性（問 22 付問）

ア. 世帯年収と収入・支出・預貯金との関連

- ・ 2003 年調査・2005 年調査においては、収入・支出・預貯金の全体傾向を規定する最も大きな要因は「年収」であった。

2003 年調査・2005 年調査では、2001 年調査にはなかった「年収」についての質問項目を設けた。くらしむきと世帯年収との関係を見ると、年収の額が大きくなればなるほど、収入・預貯金が増えた人が多かった。支出については、年収 1000 万円までは、年収の額が大きくなればなるほど増えた人が多かった（図 1-26, 1-27, 1-28）。前節で明らかになったように、くらしむきと家屋被害程度との関係が小さくなっていることをあわせて考えると、震災後 8 年～10 年が経過した 2003 年調査時点・2005 年調査時点における被災者のくらしむきを規定する最も大きな要因は、家屋被害程度ではなく、世帯ごとの年収であるといえる。

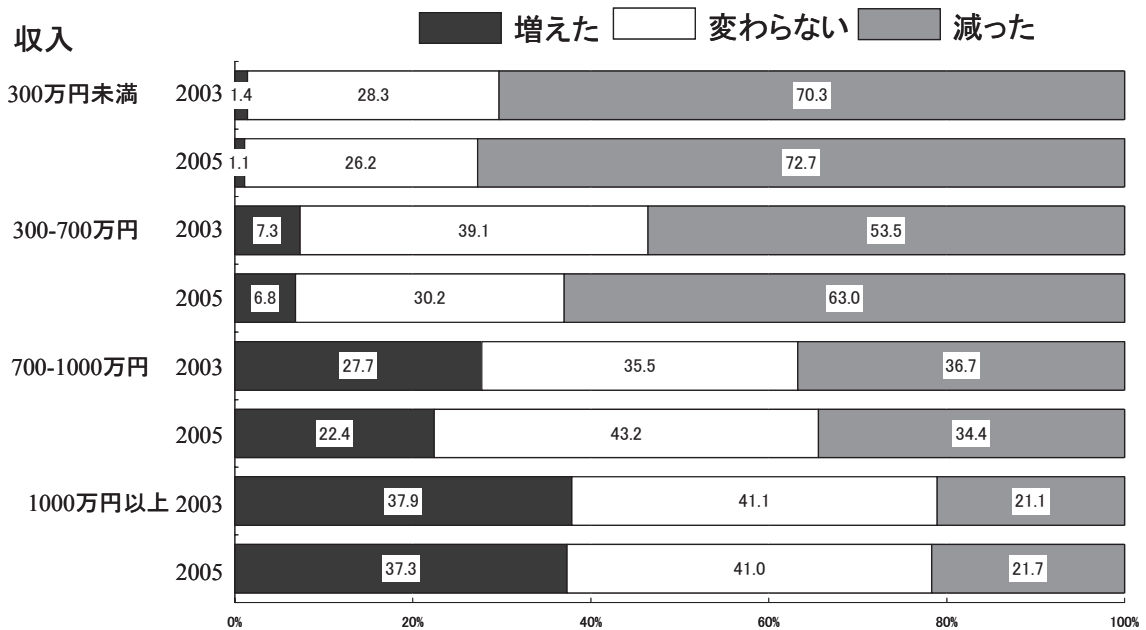


図 1-26 2003 年調査・2005 年調査 世帯年収別収入の比較

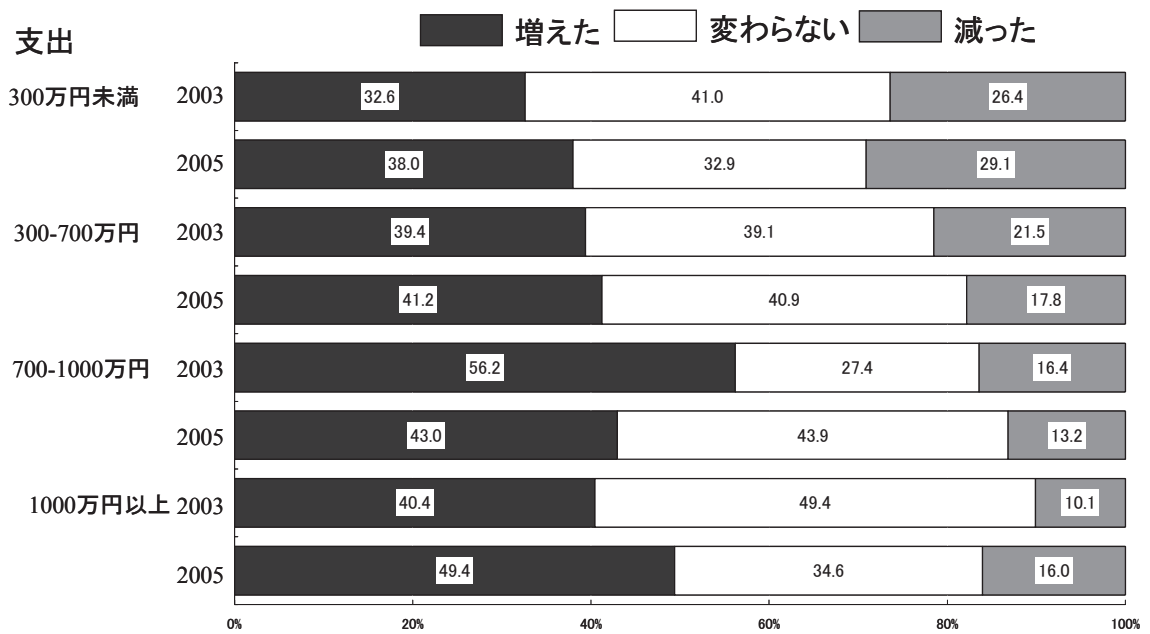


図 1-27 2003 年調査・2005 年調査 世帯年収別支出の比較

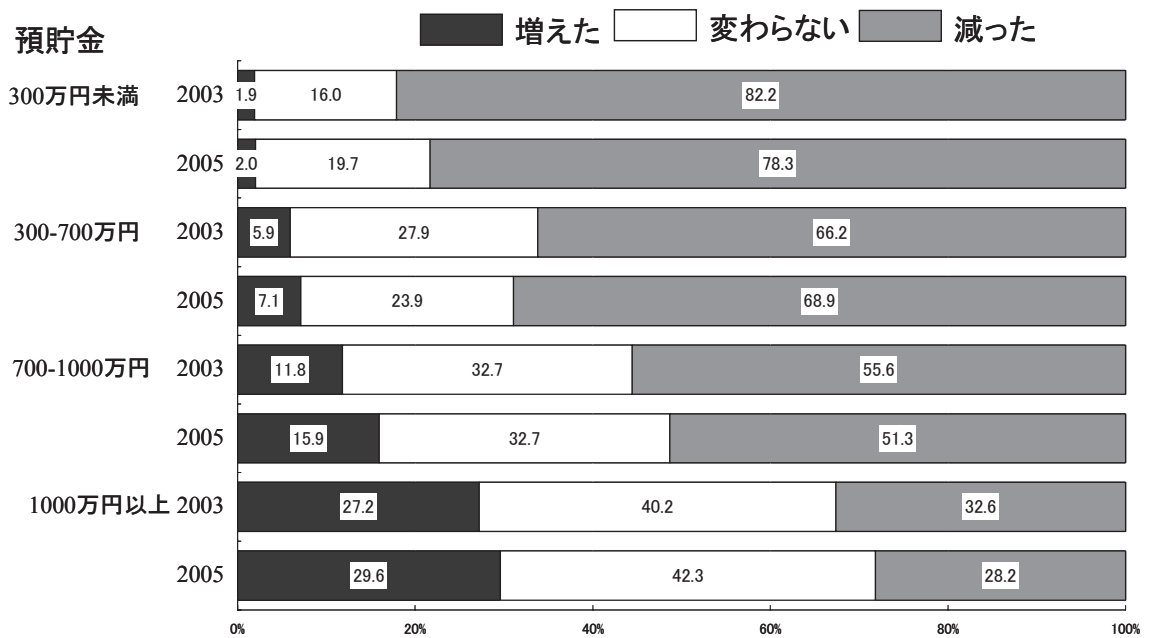


図 1-28 2003 年調査・2005 年調査 世帯年収別預貯金の比較

イ. 2005年調査における支出細目と世帯年収との関連性

- ・世帯年収別に、支出細目のパターンを見ると、「ふえる一方」型、「増やす傾向」にある型、「余裕のある人は増やし、余裕のない人は増やさない」型、「やりくり型」、「けずる一方」型の5パターンに分類された。

世帯年収別の支出細目の回答傾向に対して、クラスター分析をおこなったところ、上記の5つのパターンが明らかとなった。(図1-29)。

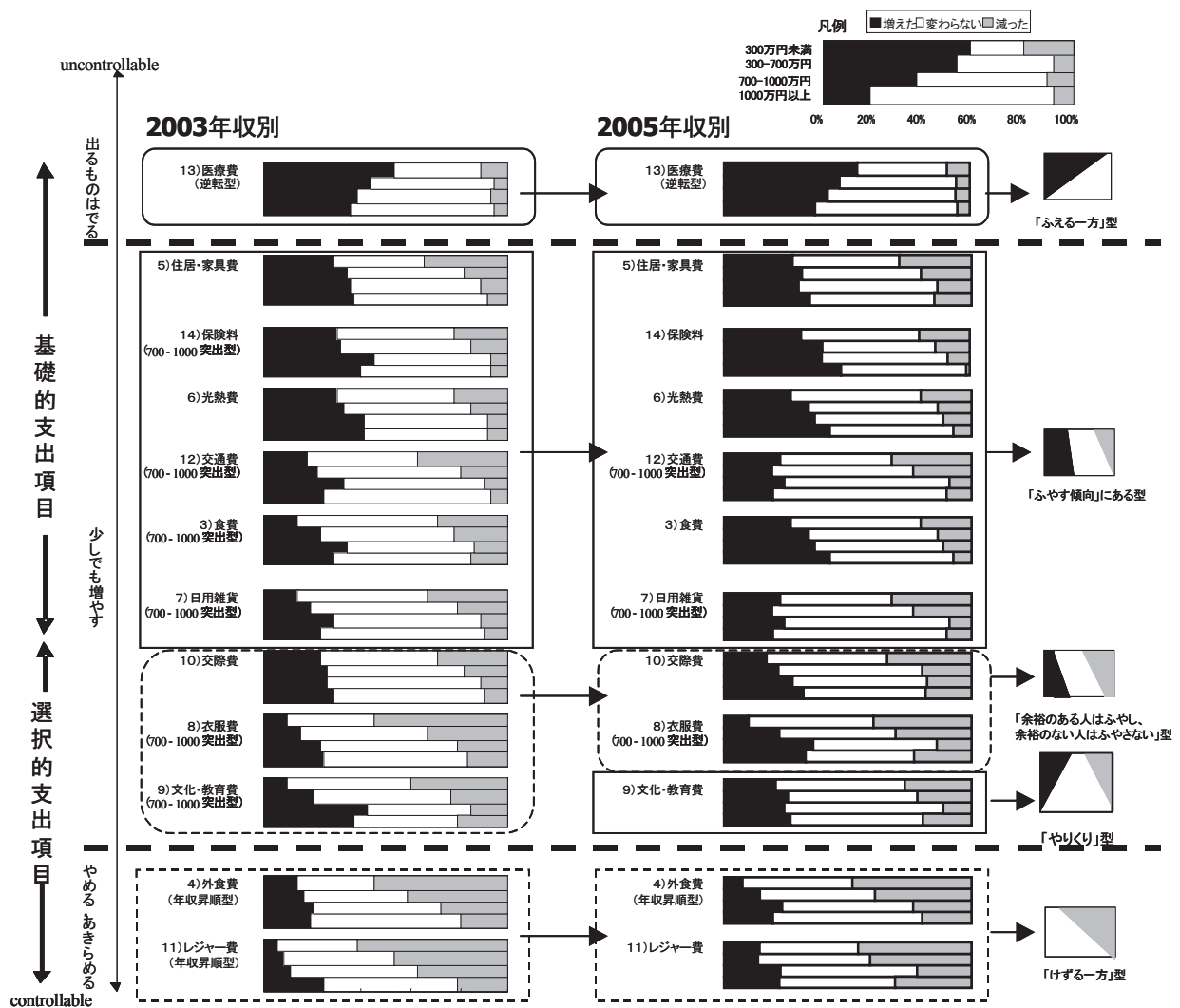


図1-29 2001・2003年調査 年収別支出パターン(支出細目別)

a) 「ふえる一方」型

2003年調査・2005年調査において、低所得者ほど支出が増えた経費は「医療費」であった。たとえ年収が少なくとも、個人の裁量で支出の増減がコントロールできないものであることが特徴である。

b) 「ふやす傾向」にある型

2003年調査・2005年調査において、高所得者ほど支出を「ふやす傾向」にある経費は、「住宅・家具費」「保険料」「光熱費」「交通費」「食費」であった。これらの経費は、年収による支出の差がそれほど顕著ではなく、年収にかかわらず、全体的に支出を増やした人が多かった。これらは、医療費以外の生活に最低限必要な細目であることから、切りつめようとしても難しい状況であったことが示唆された。

c) やりくり型

2003年調査では、2005年調査時点では、「余裕のある人は増、余裕のない人は減」型に分類されていた「文化・教育費」については、その増減が拮抗した。

d) 「余裕のある人は増、余裕のない人は減」型

2003年調査・2005年調査において、生活に余裕のある高所得者ほど支出を増やし、余裕のない低所得者ほど支出を減らした経費は、「交際費」「衣服費」であった。具体的には、年収700万円以上の生活に余裕がある人は、支出を増やした人が多く、700万円以下の人は減らした人が多かった。つまり生活に最低限必要ではないこれらの細目については、余裕のある人ほど支出をふやし、余裕のない人は減らしていることが明らかとなった。

e) 「けずる一方」型

2003年調査・2005年調査において、年収が少ないほど厳しく節約した経費は、「外食費」「レジャー費」であった。低所得者ほど支出を減らした人が顕著に多く、余裕のない生活では、まっ先に削られる細目であることが明らかとなった。また、高所得者でも、支出を増やした人は、相対的に少なく、社会全体の厳しい経済状態を反映していると考えられる。

ウ. 2005年調査における世帯年収による支出内容の特徴

- ・「住居・家具費」「医療費」「保険料」「光熱費」「食費」「日用雑貨費」などの生活に密着した経費の支出が増えた人が多かった。

家計調査においては、消費支出を品目別に分類する際、「基礎的支出項目」と「選択的支出項目」の2つに分類して、支出動向を分析する手法が一般的で

ある。基礎的支出項目は、生活に最低限必要で、支出動向が好不況の影響を受けにくい項目である。選択的支出項目は、それ以外の項目であり、支出動向は好不況の影響を受けやすいとされる。2003年調査・2005年調査における12細目においては、基礎的支出項目が「住居・家具費」「医療費」「保険料」「光熱費」「食費」「日用雑貨費」の7項目、選択的支出項目が、「文化・教育費」「衣服費」「交際費」「外食費」「レジャー費」の5項目である。

2003年調査・2005年調査において、基礎的支出項目、選択的支出項目に着目してみると、基礎的支出項目の7項目すべてが、「ふえる一方型」「ふやす傾向にある型」に分類され、これら生活に密着する支出が「増えた」と答えた人が多かった。また2003年調査では見られなかった傾向であるが、選択的支出項目の中から「文化・教育費」について年収に関係なく全体的に増減が拮抗した。本来、好不況の影響を受けることが少ない基礎的支出項目を増やし、さらに「文化・教育費」についても、全体的にやりくりを行っている傾向が明らかとなり、厳しい暮らしむきがうかがわれる。

エ. 回答者の年収における支出パターンの特徴

・支出が「増えた」に着目すると、「逆転型」「年収700-1000万円突出型」「年収昇順型」の3パターンに分類された。

a) 「逆転型」

2003年調査・2005年調査において、年収の少ない人ほどその支出を増やしている項目は「医療費」であった。これはライフステージと密接な関係があると考えられる。すなわち、比較的収入の少ない高齢者等（年金所得者等）が、医療費等を増やしていることなどが考えられ、この層への何らかの配慮が今後とも必要であることを示唆している。

b) 「年収700-1000万円突出型」

2003年調査においては「保険料」「交通費」「食費」「日用雑貨費」「衣服費」「文化・教育費」については、年収1000万円以上よりも年収700-1000万円の層の方が支出を増やしていた。2005年調査では、こうした突出型の支出細目は、「交通費」「日用雑貨費」「衣服費」の3つであった。

c) 「年収昇順型」

年収が多ければ多いほど支出を増やした項目は、2003年調査においては「外食費」「レジャー費」であった。2005年調査においては「外食費」のみであった。「レジャー費」に関しては2005年調査では「年収昇順型」の傾向が見られなくなった。